

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(平成26年度事業分)

1 施設の概要

施設名	山梨県立本栖湖青少年スポーツセンター	所管課	スポーツ健康課
所在地	南都留郡富士河口湖町本栖210	設置年月日 (改築年月日等)	平成7年4月1日
管理方式	指定管理者(公益財団法人山梨県体育協会、平成18年4月1日～平成27年3月31日)		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立本栖湖青少年スポーツセンター設置及び管理条例		
設置目的	豊かな自然とのふれあいの中で、青少年に集団宿泊生活及びスポーツ活動の機会と場を提供し、もって青少年の心身の健全な発達に寄与するため。		
主な施設内容 (定員等)	本館(事務所、宿泊棟)(宿泊73人)、新館(宿泊棟)(宿泊133人) 体育館(バスケットボール(バレーボール)コート1面) 運動場(400mトラック、フィールド)、キャンプ場(300人収容)		
主な業務内容	利用の承認に関する業務 施設及び設備器具の維持保全に関する業務 その他教育委員会が必要と認める業務		

2 類似施設・近隣施設

名称 施設内容 利用状況等	県立青少年センター:体育館、研修室・会議室、宿泊施設、運動場、屋内プール等 富士北麓公園:陸上競技場、球技場、体育館 本栖湖青少年スポーツセンターは、富士北麓地域では唯一の宿泊施設を合わせ持つスポーツ施設である。
---------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 利用状況

単位:人、%

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (目標値)
利用者数	体育施設利用者数	16,319	14,156	11,582	(平成27年3月31日をもって、指定期間が満了した。)
	キャンプ場利用者数	5,167	5,282	5,355	
	宿泊施設利用者数	12,269	12,060	12,103	
	利用者数合計	33,755	31,498	29,040	
	目標値	39,500	39,500	39,500	
	目標値設定の考え方及びその理由	H20年度目標値とする。	H20年度目標値とする。	H20年度目標値とする。	
	対24年度比	100.0%	93.3%	86.0%	
稼働率					

4 指定管理業務の収支状況

単位:円、%

		平成25年度	平成26年度 (計画値)	平成26年度 (実績値)	平成27年度 (計画値)	
収 入	施設利用料	10,754,210	13,886,000	11,172,980	(平成27年3月31日をもって、指定期間が満了した。)	
	指定管理者委託料	20,869,000	21,719,000	21,719,000		
	その他	0	0	0		
	収入合計(A)	31,623,210	35,605,000	32,891,980		
支 出	人件費	16,473,835	21,002,000	16,628,103		
	県への納付金	0	0	0		
	管理運営費	13,440,976	14,603,000	14,477,003		
	うち外部委託費(B)	3,654,347	4,095,000	3,695,464		
支出合計(C)		29,914,811	35,605,000	31,105,106		
収支差額(A-C)		1,708,399	0	1,786,874		
外部委託比率(B÷C)		12.2%	11.5%	11.9%		
利用者一人当たりの経費		662.6	549.8	747.9		

5 利用者満足度

実施方法等	実施時期:平成26年5月、7月、8月、9月、年末年始 実施方法:貸館利用者へのアンケート 回答数:100人
-------	-------------------------------------------------------------

単位: %

調査項目	満足	やや満足	やや不満	不満足
施設・設備管理	63.0%	28.0%	9.0%	0.0%
利用規程	88.4%	10.8%	0.4%	0.4%
受付・接客	90.1%	8.9%	1.0%	0.0%
食事サービス	75.4%	16.7%	6.2%	1.7%
自主事業(年末年始事業)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

調査項目	満足	やや満足	やや不満	不満足
施設全般の満足度	79.0%	21.0%	0.0%	0.0%

利用者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・電気量を増やしてほしい。 ・お風呂の時間、他の団体が時間をオーバーして利用していたのをすぐ対応してくれました。 ・アイシング用の氷の提供がうれしかった。 ・弁当の予約が1週間前はきつい。 ・職員の方の対応がすばらしく良かった。しかし食事の質をもっと上げていただきたい。
利用者の意見への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急を要し、また、利用者に影響が出るような修繕箇所がある場合には、直ぐさま修繕を行った。 ・職員の意識の徹底を図り、改善を行った。 ・環境美化を行い、利用しやすい環境づくりを行った。 ・食事委託業者に利用者の要望を伝え、協議を行った。

6 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	業務計画書のとおり行った。 緊急を要し、また、利用者に影響が出るような修繕箇所がある場合には、直ちに修繕を行った。 環境美化を行い、利用しやすい環境づくりを行った。	施設の維持管理については、事業報告書や現地確認の結果、適正に業務執行されている。
運営業務	業務計画書のとおり行った。 電話対応や接客対応等、利用者の目線に立った運営ができるよう、職員の意識の徹底を図った結果、利用者に満足していただけた。	施設運営については、事業報告書や現地確認の結果、適正に業務執行されている。
自主事業	業務計画書のとおり行った。 例年通り、乾燥機、自動販売機、カップ麺、薪類は好評を得られた。	自主事業については、事業報告書や現地確認の結果、適正に業務執行されている。
利用状況	昨年度と比べ、利用者数が減となった。少子化の影響もあり、利用団体の団員数が年々減少していることが要因と考えられる。 利用促進のため、2～3年前まで利用があった団体に対し、パンフレット等を送付しPRを行った。	キャンプ場及び宿泊施設利用者数は、僅かながら前年度を上回ったものの、施設全体の利用者数は減少した。
収支状況	キャンプ場及び宿泊施設利用者の増加により、僅かながら収入が増加した。 支出に関しては天井や艇庫シャッター等が破損し、修繕を行ったため、経費が多くかかってしまったが、燃料費や通信運搬費を抑える等の経費削減に努めた。	利用者の安全性の確保や利便性の向上に必要な修繕を行うなかで、燃料費や通信運搬費を抑える等の経営努力を行った。
利用者満足度	環境美化に努めることにより、利用者から綺麗になったとの声が多数寄せられた。 最終年度ということもあり、閉鎖を惜しむ声も多数届いた。	施設は設置から相当期間経過し、老朽化しているにもかかわらず、概ね90%の満足度となっていることは、評価できる。
運営目標の達成状況	利用者数目標39,500人に対し、実績は29,040人であり、目標達成率は73.5%であった。 少子化の影響により、利用団体の団員数が年々減少しており、目標人数に達することはできなかったが、過去に利用した団体に対し、パンフレット等を送付するなど広報に努めた結果、数年に1回利用する方々のうち、今年度で閉館することを聞きつけて宿泊された方もおり、キャンプ場・宿泊施設利用者数は、昨年度の実績をわずかながら超えることができた。	
施設所管課による総合的な評価及び指導事項	維持管理業務、運営業務等については概ね適正に実施されている。 利用者数については、目標は達成出来なかったものの、キャンプ場及び宿泊施設利用者数が僅かながら前年度を上回ったことは評価できる。	
施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況	(平成27年3月31日をもって、指定期間が満了した。)	

7 管理体制(組織図)

平成26年4月1日現在

